

首都圏-房総全域をゆるがし「オニ波」を貫徹

2/15の「613」一方強行妥結を実力で阻止

動労千葉

86.2.17
No. 2169

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五六（公衆）〇四七二二二七二〇七

ついに動労千葉は、2月15日、動労「本部」革マルおよび国労中央指導部のメチャクチャなスト破りをうち破って、断固としてオニ波をもはるかに上まゆる「オニ波スト」を貫徹した。この渾身の力をこめた歴史的な「2.15スト」は、当局の団交打ち切り「613」一方強行策動を打ち破ると共に、国労指導部の屈服「制動をのりこえたより一層の職場生産点の活性化と労働者の決起を生み出した。まさに「オニ波スト」は勝利にむかって大きく情勢と展望を切り拓いた。

政府中枢「本社直轄の大弾圧はぬのけ、一系乱れずストを貫徹

2月4日以降の線見阻止闘争、非協力・順法闘争により情勢の主導権を握りしめた上で、動労千葉は満を持して「オニ波スト」へ突入した。

動労千葉の「2.15オニ波スト」が全国鉄労働者の活性化と爆発的決起に直結すること、そして何よりも「業務移管」「613ダイ改」そのものが破産しかねないことに恐怖した当局は、まさに常軌を逸した凶暴なスト破壊にうつて出てきた。千名を越える白腕・公安を職場に導入し、五千名の機動隊で全職場と沿線を包囲すると共に千葉局や現場に本社幹部が乗り込み、「スト圧殺」と「処分乱発」をのみ自己目的化した弾圧「直接指揮の弾圧体制をしいた。二〇〇名組合員は、これと真向から対決し、一系乱れず「オニ波スト」をうちぬいたのである。

完全に血迷った当局

当局のやり口は、(一)どうあがいてもスト破りの方策のたてられなかつた成田拠点を除いて「動労本部」革マル・国労指導部と結託した完全な「スト破りダイヤ」を作成し、指導員や予備のテトラメ運用も含め、何か何でも千葉より東京方面への統制緩行・快速電車だけは動かす。ことに血道をあげた。更に、スト拠点にはなつていなり千葉駅乗り入れの外周三支部(銚子・勝浦・館山)に対しては、動労千葉の乗務員のみならず、組合の命令に従うことなく区所長の命令する業務に従事します。なる全く違法なスト破り強要の不当労働行爲文書、「確認書」なるものへの署名・捺印をせまじり、当然に

もこれを拒否し抗議すると、乗務の意思をしっかりと勝手に断定して乗務させない。事実上の不法ロックアウトを行なった。「本来動くべき(スト対象外の)内房・外房・総武本線の上り電車」のごとくを当局自らがストツプしてしまふというまさに常軌を逸したやり方で、法はあるが乗客をも無視してまでスト圧殺に全力をあげたのである。

「スト破りダイヤ」を拒否して、国労分會内部から決起

こうしたわけののりでの迫力の中で津田沼・千葉運転区の現場では、「スト破りダイヤ」への乗務を強要する当局と国労指導部に対して国労分会の内部からの怒りの糾弾と決起がわき起り、千葉運転区では3名の国労組合員が「スト破り」の汚名を着せられることを敢然と拒否して緊急避難「国労を脱退して動労千葉に加入してストに参加する形でスト破り乗務を拒否」して叩いた。「オニ波スト」は、①「613」一方強行や一方妥結を断念せしめ、②スト圧殺のためなら平気で列車運行などストツプさせる当局の反動的本性をあばき出し、③「オニ波」以上のなりこり構わぬ動労「本部」革マル、国労中央のスト破りをもつき破って首都圏-房総を揺がす動労千葉の不屈の陣魂「勝利の指針執念をさし示し、④こりわけ千葉・東京の国労の現場の仲間の画期的な流動化と女感「決起をかちとり、叩きの展望を大きく拓いた。「オニ波」闘争の拓いた勝利の地平に不拔の確信を固め、当局の不当弾圧「処分策動、又悪質なスト破り組合指導部への徹底追及等の日常的叩きを強化しつつ、「3.3移行」絶対阻止へ当面する線見阻止連日闘争を軸に全力で叩いていこう。